

## 琉球大学学術リポジトリ

Risk factors for postoperative recurrence of intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas based on a long-term follow-up study : proposals for follow-up strategies

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2017-05-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 與儀, 竜治 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/36647">http://hdl.handle.net/20.500.12000/36647</a>

平成29年 2月 21 日

(別紙様式第7号)

論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	與儀 竜治
論文審査委員	審査日	平成 29 年 1 月 31 日	
	主査教授	青木 一雄 印	
	副査教授	吉見 直己 印	
	副査教授	西巻 正 印	
(論文題目)			
Risk factors for postoperative recurrence of intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas based on a long-term follow-up study: proposals for follow-up strategies (長期追跡研究による膵管内乳頭粘液性腫瘍の術後再発因子の検討：追跡方法の提案)			
(論文審査結果の要旨)			
上記論文に関して、研究にいたる背景と目的、研究内容、および研究成果の意義と学術的水準について慎重に検討し、以下のような審査結果を得た。			
1. 研究の背景と目的			
膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)術後の再発に関わる因子について、詳細かつ長期間の経過観察例での検討を行った報告は少なくその術後経過は不明な点が多い。この研究の目的はIPMN手術後の患者に対するフォローアップの方法を提言することである。			
2. 研究内容			
1988年～2014年に外科的切除にてIPMNと診断した162例を対象とした。このうち、IPMN切除時に同時に通常型膵癌を認めた7例とIPMN術後の観察期間が6ヵ月未満である2例を除外した153例を最終解析対象とし、再発率、再発形式、および再発に関与する因子を後方視的に評価した。悪性の定義は、high-grade dysplasia(HGD)以上とし、再発部位は、残膵と膵外の2つに分類し検討した。また、残膵再発の定義は残存膵や断端にHGD以上のIPMN病変もしくは通常型膵癌が出現したものとした。			
切除されたIPMN153例の内訳はlow/intermediate grade dysplasia(LGD/IGD)が54.9%(n=84)、HGDが22.2%(n=34)、微小浸潤癌が4.6%(n=7)、浸潤癌が18.3%(n=28)であった。フォローアップ期間の中央値が46.4ヶ月(6-216ヶ月)で、全体の再発率は17.0%(26			

/153)であった。組織毎の再発率はLGD/IGDは6.0%(5/84), HGDは5.9%(2/34), 微小浸潤癌は42.9%(3/7), 浸潤癌は57.1%(16/28)であった。Cox 比例ハザードモデルによる多変量解析の結果, 再発危険因子として有意であったものは体尾部の病変, 結節径5mm以上, 浸潤癌, リンパ節転移あり, 残膵に嚢胞が存在, 術直後と比べて主膵管が2mm以上拡張する, が有意な因子として抽出された。再発部位に関しては, LGD~微小浸潤癌は全例(10/10)が残膵に再発し, 浸潤癌は全例(16/16)が膵外に再発していた。術後再発した26例のうち, 5年以降の再発率は再発全体の15.4%を占めた。

これらの結果から, IPMN 術後のフォローアップは切除病理がLGD~微小浸潤癌の場合は, 残膵再発を念頭に置いて未切除のIPMNと同様のフォローアップを, 切除病理が浸潤癌の場合は, 膵外再発を念頭に置いて膵癌術後と同様のフォローアップを行うことが望ましく, 定期的なフォローアップは術後5年以降も必要であると思われる。

### 3. 研究成果の意義と学術的水準

本研究はIPMN 術後の再発を検討し, フォローアップ方法に関して提案した研究である。現在, ガイドラインでIPMN 術後の明確なstrategyはなく, 本研究成果が, IPMN 術後フォローアップのstrategyの一助になると思われ, 国際的にも高く評価される研究であると思われる。

以上により, 本論文は学位授与に十分値するものであると判断した。

- 備考
- 1 用紙の規格は, A4とし縦にして左横書きとすること。
  - 2 要旨は800字~1200字以内にまとめること。
  - 3 \*印は記入しないこと。